

海からの風 山からの風



尾道市文化協会通常総会

令和元(2019)年度 尾道市文化協会通常総会を開催しました

5月29日(水)、市民センターむかいしま内の向島公民館大研修室において、令和元(2019)年度尾道市文化協会通常総会を開催しました。

総会の開催に先立ち、この1年間にお亡くなりになられた会員の方々のご冥福をお祈りし、出席者全員で黙とうをささげました。

開会にあたり、小林会長は、「会員の皆様の地域に根差した文化活動や、昨年の市制施行120周年記念事業へのご尽力、心をつちかしてオール尾道で文化活動を盛り上げていただいていることに感謝申し上げたい。また、令和の時代を迎え、歴史を重ねながら、文化協会の一年一年が更に有意義で実りあるものになるために、皆様のお力をお借りしたい。」と挨拶しました。

総会では、議決権のある出席者43人、委任状出席者68人を合わせ、会員総数137人のうち2分の1以上の出席があることを確認し、議長に村上恵子さん(チャイムソナーレ/ポコアポコ)を指名し、議事に入りました。

始めに、前年度の事業及び収支決算の報告を行った後、監事から監査結果の報告を受け承認されました。続いて、本年度の事業計画(4頁に掲載)及び収支予算、「役員改選」について審議し、全ての議事が承認され総会を終えました。

総会で確認したこと

事業計画について

令和元(2019)年度は、備後大田庄の船津倉敷地として尾道の港が朝廷から公認されて850年目にあたることから、様々な「尾道港開港850年の記念イベント」が実施されます。この機会に、尾道の歴史と文化に触れていただきたいと思えます。

また、「尾道港開港850年記念」の冠等事業へのご協力をお願いします。

今年度の文化協会事業が充実した内容になるよう、様々な事業と連携しながら推進していきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

尾道港開港850年記念



役員の改選について

役員及び顧問の任期は2年とされており、今年が改選の年に当たることから、役員の改選について審議し、令和元(2019)年度、2(2020)年度の役員が次のとおり決定しました。

引き続き皆様のご協力を、よろしく申し上げます。

役職名	名 前	所属部等	役職名	名 前	所属部等
会 長	小 林 暢 善	茶 道 部	理 事	笹 嶋 三寿穂	御 調 地 区 長 (音楽芸能部副部長)
副 会 長	藤 田 宣 昭	文化創造部副部長	理 事 (新任)	中 元 寛	瀬 戸 田 地 区 長 (音楽芸能部)
副 会 長	中 田 富 美	文化創造部長	理 事	住 元 進	華 道 部 副 部 長
副 会 長	大 本 翠 山	音 楽 芸 能 部	理 事	吉 田 多津子	美 術 部 副 部 長
会計理事 (新任)	矢 田 加代子	音 楽 芸 能 部	理 事	村 上 富 男	文 化 創 造 部
理 事	住 貞 義 量	文 芸 部 長	理 事 (新任)	藤 間 紫壽衛	音 楽 芸 能 部
理 事	佐 藤 圭 史	美 術 部 長	監 事	永 井 直 美	音 楽 芸 能 部
理 事	村 上 ウズ子	茶 道 部 長	監 事 (新任)	黒 田 家 健	音 楽 芸 能 部
理 事	小 林 明	華 道 部 長	顧 問	平 谷 祐 宏	尾 道 市 長
理 事	小 川 豊 文	音 楽 芸 能 部 長	顧 問	佐 藤 昌 弘	尾 道 市 教 育 長
理 事	木 村 修 二	因 島 地 区 長 (文化創造部)	顧 問	吉 村 功	華 道 部

文化講演会について

今年も尾道市文化協会の総会にあわせて、文化講演会を実施しました。

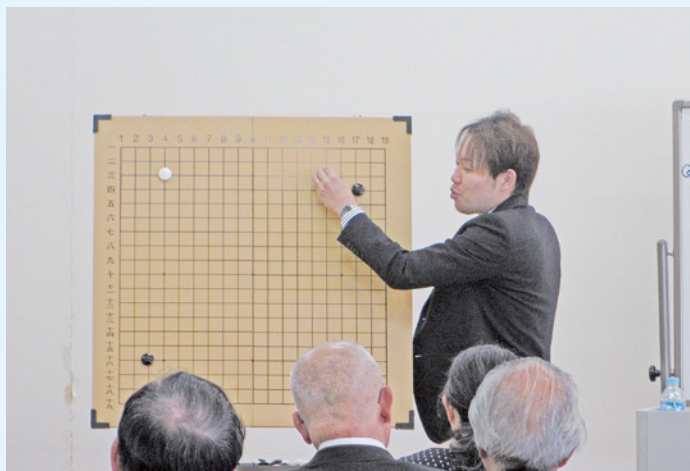
今年度は、尾道市の名誉市民であり、「碁聖」と呼ばれた天才棋士である「本因坊秀策」の生誕190年になります。

これを記念し、文化講演会では、現役のプロ棋士であり、尾道市立大学で囲碁の講義の講師を務める山本賢太郎五段をお迎えして、『みんなの知らない 囲碁の世界』と題してご講演いただき、会員や市民約80人が参加しました。

講演は、尾道市因島出身である「本因坊秀策」の生涯を中心に、囲碁のルールや自身のプロ棋士としての経験を踏まえて、お話しいただきました。

江戸時代末期に活躍した「本因坊秀策」が棋士として大成するため、幼少の頃に親元を離れ、囲碁の家元である本因坊家に弟子入りしたように、山本賢太郎五段も小学生の時に親元を離れてプロ棋士に弟子入りし、プロを目指したお話は、「本因坊秀策」の時代の棋士のあり方が現代の囲碁棋士、囲碁文化にも通じるものだと実感できました。

この講演を通じて、講演会に参加された会員や市民の皆様の今後の文化活動、普及活動の一助となることを期待します。



尾道港開港850年について

尾道は今年、開港850年を迎えました。これは、尾道が平安時代の嘉応元年(1169)に備後国大田庄(現在の世羅町周辺)という庄園の倉敷地(年貢米積出港)に公認されたことによります。この頃の尾道は、海辺にそった小さな集落であったと考えられます。

平安時代には、広大な世羅台地に広がる大田庄は、栄華を誇った平氏の領地となっていました。そこで作られた年貢米を京の都へ積み出す倉敷地(港)がありませんでした。そこで、大田庄から近く、天然の良港として機能を備えていた尾道が大田庄の倉敷地とするよう、嘆願がだされたのです。

これが認められ、港町尾道が成立し、その後急速に発展していくことになります。平家から後白河法皇に寄進された尾道は、さらに文治2年(1186)に大田庄が高野山領として寄進されたことに伴い、同じく高野山領に編入されました。その後の文永7年(1270)には、『高野山文書』によれば、港町尾道に入港する船舶から、津料(関税)を徴収していたことも分かっており、独立した港町であったことをうかがい知ることができます。

この頃には、尾道は多くの商人や問丸・梶取といった海運業者が集まる港町となっており、さらに鎌倉時代末期～室町時代前期には、尾道商人の寄進の他に、室町幕府将軍足利氏や備後守護の山名氏らにより、港町の背後にたつ寺院伽藍が整備され、現在の寺のまちとしての尾道の基盤ができあがったといえます。

港町尾道は、年貢米の輸送や各地との交易で大きな発展を遂げ、商人の躍進により、多くの寺社が建ち並ぶ商港都として繁栄しました。現在の尾道にみられる寺のまちの基礎は、この時代に築かれたといえます。この繁栄は、室町幕府の衰退や戦国武将の登場とともに衰退し、大きく町が変革する江戸時代につながっていきます。



令和元(2019)年度の事業計画

9月	15(日)	けんみん文化祭ひろしま'19 洋舞フェスティバル	しまなみ交流館
10月	26(土)~27(日)	第14回瀬戸田地区文化祭	瀬戸田市民会館ほか
	27(日)	第18回高校生おのみち演劇祭	しまなみ交流館
11月	3(日・祝)	第37回総合文化祭 「尾道小径散策秋の茶会2019」	寺院等
	9(土)~10(日)	市民音楽芸能祭2019	しまなみ交流館
	9(土)~10(日)	因島地区総合文化祭2019	因島市民会館ほか
	13(水)~17(日)	第37回総合文化祭「尾道の美展2019」	市民センターむかいしま
1月	26(日)	御調地区文化祭2019	御調文化会館
2月	23(日)	第30回尾三地区フェスティバル 「和太鼓、邦楽、日本舞踊、新舞踊、大正琴」	せらにシタウンセンター
3月	1(日)	第30回尾三地区フェスティバル 「民謡民舞、芸能、銭太鼓、吟詠剣詩舞、洋舞」	大崎上島文化センター
	8(日)	第30回尾三地区フェスティバル 「合唱、洋楽」	しまなみ交流館
		『尾道文化』第38号発刊(文芸部)	
		『御調文学』第54号発刊(御調地区)	
		会報紙『海からの風 山からの風』第23号発行(文化創造部)	
未定	文化研修会「他市の文化協会行事の視察、意見交流会等」		

事務局だより

4月の人事異動に伴い、事務局員と担当が変わりました。今後の部会や実行委員会、地区会を通じて、改めて紹介していきます。この会報を通じて、新たな会員の勧誘など、取り組みが進みますようご協力をお願いします。

事務局長	村 上
事務局次長(事務・総括)美術・華道部	小 野
音楽芸能部	西 田
文化創造部	高 橋
茶道・文芸部	岩 永

尾道市文化協会会報「海からの風 山からの風」第22号

発行/令和元(2019)年7月31日
 発行所/尾道市文化協会 尾道市久保一丁目15-1
 尾道市企画財政部文化振興課内
 TEL(0848)20-7514 FAX(0848)37-2740
 E-mail:bunka@city.onomichi.hiroshima.jp